

全国の整備相談所に寄せられた整備相談事例 Vol. 46

ケースその１

【内容】 車検１ヶ月後にエンジン不調となり自宅前の坂道を登らなくなった

・ 車名：乗用車 ・ 登録年月：平成１８年 ・ 走行距離：２６０，０００ｋｍ

相談者は、ユーザーの娘。高齢（７０歳台）の実父に代わり電話された。平成２５年１月末日、車検切れのため、ディーラーW店で車検を受けた。車検に際し新車に乗り替える案もあったが、サービス担当者の「あと２年乗れます」の言葉により、車検を受けた（費用は２０万円超）。２月７日、父が仕事で三重県を走行中にエンジン部不調を感じ、娘に電話連絡があった。結局、２月９日に帰宅したが、２月１０日には自宅前の坂道を登らなくなった。ディーラーW店から、「修理に２６万円かかる」、「運が悪かった」、「お宅にも落ち度はある」、「次はエンジン系統にも来るでしょう」と言われた。更に、「直さないなら車を引き取って欲しい」とも言われた。「そういう態度は如何なものか」と相談者は憤慨している。車検前に故障の恐れを説明してくれていたなら、車検受けずに新車を購入したとのこと。

【対応】

車検でＡＴのオイル量や漏れ、異音などを確認するが、ＣＶＴ内の機械的なものは分からないし、あと２年乗れると云ったとの主張については店側の言い分を聞かないと分からないことを説明した。ディーラー本社の課長と連絡を取り、話し合った。本社としては、保険も含め調整しW店と確認しながら方向付けをし、再度連絡くれるとの見解。３月２０日、本社課長から連絡あり。「W店と話し合ったが、返却された代車のフロントガラスにひび割れあり困っている」、「ユーザーが故障車を修理するのなら、多少の費用を負担する用意はある」、これが結論とのこと。その後ユーザーと連絡が取れなかったが、３月２７日、ユーザーに連絡。内容を報告し了解された。（この１週間に、本件にて運輸支局専門官が当該事業場へ確認のため立ち入っている）

タイミングベルト整備作業時の注意事項

タイミングベルトの脱着を伴う整備作業を行う際に、緩めたタイミングベルトテンショナープーリーを他部品へ強く干渉させ、テンショナープーリーが変形してしまう事例があることから、タイミングベルトの整備作業時の注意事項をご案内致します。

■ 対象 エンジン型式 3G83

■ 注意事項

会社名	通称名	車両型式	エンジン型式
三菱	ミニカピスタチオ	H22A, H22V, H27A, H27V, H32A, H32V, H37A, H37V, H42A, H42V, H47A, H47V	3G83
	ミニカトップ	H32A, H32V, H37V	
	トップBJ	H42A, H42V, H47A, H47V	
	トップ	H82A	
	eKワゴン	H81W, H82W	
	ミニキャブ	U41T, U41V, U42T, U42V, U61T, U61V, U61W, U62T, U62V, U62W	
日産	オッティー	H91W, H92W	3G83
	クリッパー	U71T, U71V, U71W, U72T, U72V, U72W	

タイミングベルト取り外し作業において、テンショナーを緩め側（ウォーターポンプ側）一杯に寄せてボルトで固定する際に、テンショナープーリーをウォーターポンプと強く干渉させる事でテンショナープーリーが変形する可能性があります。

つきましては、以下事項についてご注意の上、作業をお願い致します。

- ・ タイミングベルトを取り外し作業において、テンショナーを緩め側（ウォーターポンプ側）一杯に寄せるために、ドライバー等でテンショナーを押す際、又はテンショナーを緩め位置で固定する際、テンショナープーリーをウォーターポンプに強く干渉させないように注意して下さい。
- ・ タイミングベルトの張力セット後、クランクシャフトを1～2回転させてテンショナープーリーからのすれ音などの異音なくスムーズに回転することを確認して下さい。
- ・ タイミングベルトに適正な張りがあることを確認して下さい。

